



本の紹介

「リハビリテーションのための住まいづくり」 相良二朗, 他著

伊東 元/東京都老人総合研究所 理学療法士

本書は身体に障害を有する人のための住宅環境調整について、リハビリテーションスタッフの立場から書かれたガイドブックと言える。

第1章では、在宅福祉との関係から身体障害者の住宅改造の意義について、第2章では身体の障害状況、改造資金のための制度、住宅構造の各要素について述べられている。第3章では住宅改造の相談を行なう上での基本的な考えかたと実際の流れについて、また実際に行なわれた住宅改造相談678件のまとめが述べられている。第4章と第5章では住宅改造の実際例として脊髄損傷と脳卒中後遺症による片麻痺を対象とし、障害の程度や地域性の異なる代表的なものを集めている。第6章は住宅に関連する機器や設備、自助具と

いったものを取り上げ、第7章では地域リハビリテーション活動と住宅改造との関連について、そしてQOLと住宅改造との関連を実例を通して紹介している。第8章では住宅改造相談の窓口と障害者用モデルハウスのリスト、生活機器の製造販売業者のリスト、そして巻末には参考文献が「建築」、「制度」、「身体／生活」、「生活機器」と項目別に整理されている。

兵庫県リハビリテーションセンターの理学療法士、作業療法士、医療ソーシャルワーカー、能力開発部職員のチームワークにより編集された本書は、なるほど日本のリハビリテーションの草分けであり、著者らの長い試行錯誤の蓄積から執筆されたことがうかがえる。例えば、住宅改造を行なう上で陥りやすい点を失敗例として取

り上げるなどして、

本書の中にも述べられているように、機器は時間的、空間的にも比較的小さく、個人的であるのに対して、住宅は共に生活する家族との共用も考えなくてはならないという難しさをもっている。この難しさのチェックポイントも盛り込んでもらえたら、また、都市部だと比較的借家住まいのケースが多く、手すり一つ取り付けることにも苦労することがよくある。こうした場合のノウ・ハウなど……現場ではケース・バイ・ケースで欲ばかりであるが、ともあれ、これだけ数多くの現場での実績からまとめられた本は他にない。職場の机の上に置いて住宅改造時のチェックに参考にしたい本である。

(A4版, 180ページ, 2000円(消費税含まず), 日本リハビリテーション工学協会, 1989年刊)